

地域づくり委員会



10月20日(水)広島市において、約40名の委員出席のもと、2021年度第1回地域づくり委員会を開催しました。

当日は、国土交通省 中国地方整備局 道路部長 伊藤高氏によるご講演の後、当委員会の活動実施状況報告および政府等への要望事項を審議し、原案どおり承認されました。ここでは、講演の概要を紹介します。

【講演要旨】

「道路行政に関する 最近の話題」

国土交通省中国地方整備局
道路部長 伊藤 高氏



■令和4年度予算の概算要求の基本的な方針
グリーン、デジタル、地方活性化、子供・子育てへの予算の重点化を進めるため、「経済財政運営と改革の基本方針2021」および「成長戦略実行計画・成長戦略フォローアップ」等を踏まえた諸課題について、「新たな成長推進枠」を措置することとなった。

公共事業関係費などの裁量的経費から一律10%削減し、各省庁から「新たな成長推進枠」にふさわしい案を募り、ふさわしいと判断された案件について、上乘せして予算措置される。

■令和4年度道路関係予算

道路関係予算の「新たな成長推進枠」としては、「道路ネットワークによる地域・拠点の連携確保」、「効率的な物流ネットワークの強化」、「道路の老朽化対策の更なる推進」を要望した。

令和3年度予算を10%削減したものに「新たな成長推進枠」を上乘せし、対前年度比約1.2倍の概算要求を行った。

■新たな成長推進枠

【道路ネットワークによる地域・拠点の連携確保、効率的な物流ネットワークの強化】

道路ネットワークによる地域・拠点の連携確保、効率的な物流ネットワークの強化のために、重要物流道路として道路網を整備しているが、道路網自体の整備だけではなく、拠点の整備にも力を入れている。近畿と九州の中間地点である中国地方で拠点を作れないかと考えている。

【道路の老朽化対策の更なる推進】

あと10年もすると、建設後50年以上経過

する橋梁やトンネルが加速度的に増えてきて、道路関係予算の中で維持管理に係る割合が大きくなっていくため、中長期的なトータルコスト削減が課題になっている。これまででは壊れたら直すという事後保全というやり方をしていたが、よりコストを削減できる予防保全というやり方を進めている。

またICT・AI等の活用による点検・診断の高度化に取り組んでおり、主に道路の舗装の点検において活用している。

■防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策

対前年度比2割増しの予算を確保するための具体的取組みとして、防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策という形で、国土強靱化に力を入れており、令和3～7年度の5か年でおおむね15兆円程度の事業規模を目途としている。

【ミッシングリンクの解消】

5か年加速化対策では災害に強い国土幹線道路ネットワークの構築を掲げており、例えば、この夏の島根県の国道9号の災害による通行止めの場合、並行する山陰道が整備されていることにより被災直後でもネットワークを確保できた。迅速な災害復旧には地元建設業界との協力も重要となってくる。

また、山陰道については、珍しく開通時期を明示して事業を行っている。開通時期を明示することで周辺の計画も立てやすく、また予算確保もしやすい。これは地域が一体となって要望してきた結果であると考えている。

【高速道路4車線化】

災害時に片側が被災しても4車線であれば、片側交互通行により、早期に通行を確保できるので4車線化を進めることも重要。

現在は有料区間の4車線化を行っており、無料区間は未開通区間の開通、ミッシングリンク解消を推進している。

(担当:中村)